

冬季におけるLAハイブリッドユリの適品種選定

1. はじめに

近年、各地で農産物直売所が開設され、周年出荷が可能な品目が望まれています。

ここでは、LAハイブリッドユリの生育及び切花品質を調査し、氷温貯蔵球を用いた12月出荷作型適品種を選定します。

2. 試験方法

氷温貯蔵球（球周14～16cm）を15℃で7日間解凍・芽伸ばし処理し、2005年9月27日にガラス温室に定植しました。

栽植密度はベッド幅90cm、株間15cm、条間12cmの6条植えとし、基肥はN:P₂O₅:K₂O=2.0:2.0:2.0kg/a、追肥はN:P₂O₅:K₂O=1.0:1.0:1.0kg/aで施用、最低室温10℃で管理しました。供試品種は「ミュージック」、「セラダ」、「サンビト」、「キャバレッセ」、「ギタン」、「ロイヤルトリニティ（対照）」を用いました。

3. 試験結果

切り花長は、対照品種の「ロイヤルトリニティ」に比べて、「ギタン」、「キャバレッセ」、「サンビト」が長くなりました。

散形花序の発生率は、「ギタン」が100%で、「サンビト」が0%でした（表1、図1）

到花日数は、「ミュージック」が最も短く、他の4品種は対照品種よりも長くなりました（表2）。

また、上物率は、「セラダ」、「サンビト」が高く、「ミュージック」は低い結果となりました（表2）。

4. おわりに

以上のことから、12月出荷作型には上物率が高く切り花長が長い「サンビト」が有望と考えられました。

（園芸部 尾崎 健、紺谷 均）

表1 12月出荷作型における生育特性

品種名	切り花長 (cm)	茎径 (mm)	切り花重 (g)	一次花蕾数 (個)	散形花序発生率 (%)
ミュージック	68.8	7.8	100.2	5.7	40.0
セラダ	78.9	8.6	154.6	5.9	33.3
サンビト	85.3	8.2	150.0	4.5	0
キャバレッセ	91.5	9.5	159.7	4.6	60.0
ギタン	98.0	8.3	154.4	5.1	100
ロイヤルトリニティ	81.2	7.1	113.6	2.9	96.7

注) 調査本数30本。
球根養成のため地際から10cm程度残して採花。
二次花蕾数は各区とも発生が認められなかった。

表2 12月出荷作型における開花特性

品種名	花色 (JHSCC)	平均採花日 (月/日)	到花日数 (日)	上物率 (%)
ミュージック	白 (-01)	11/28	82 ± 1.1	70.0
セラダ	明橙黄 (2204)	12/6	70 ± 0.8	100
サンビト	黄白 (1901)	12/9	73 ± 0.7	100
キャバレッセ	紫ピンク (8903)	12/9	73 ± 0.7	93.3
ギタン	浅緑黄 (2703)	12/20	84 ± 1.1	95.0
ロイヤルトリニティ	鮮橙 (1805)	12/2	66 ± 0.6	96.7

平均値±標準偏差
切り花長60cm以上で3輪以上の切り花

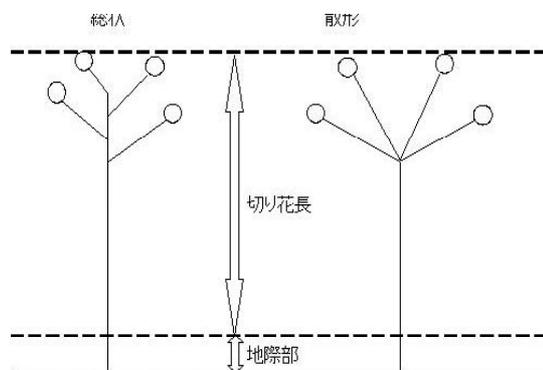


図1 花序の分類及び測定位置
注：地際部は球根養成のため10cm程度残して採花